

新たな学校づくり検討会

磐田市では、小中一貫教育やコミュニティ・スクールのさらなる推進を図り、学府一体校など新時代に合わせた新たな学校づくりを進めています。

そのような中、ながふじ学府（豊田中学校区）で市内で最初の学府一体校の取り組みが始まることになり「ながふじ学府新たな学校づくり検討会」を立ち上げました。ここでは、これまでの検討結果や経過をお知らせします。

ながふじ学府の方向性について、次のようにまとめました

- 第 2 回、第 3 回の検討会では、ながふじ学府の方向性について検討しました。

ながふじ学府は豊田中学校と豊田北部小学校を一体型の施設とする『**向上型学府一体校***¹（**B 型**）』として運営をスタートし、将来は豊田東小学校を含めた『**未来型学府一体校***²（**A 型**）』を目指していきます。



※ 1. 向上型学府一体校: 学府内に施設一体型の小中学校と既存の施設で運営する小学校が存在するもの。地区の説明会では、「衛星型学府一体校」という言葉を使用。現在行われている小中一貫教育のさらなる向上を図るという意味を含む。

※ 2. 未来型学府一体校: 学府（中学校区）にあるすべての施設を同じ敷地内に設置するもの。

■ 第 2 回・第 3 回検討会での意見

■ 第 2 回検討会 ■

- ・ 豊田北部小と豊田中の施設の老朽化や児童生徒数から考慮し、まずは、向上型学府一体校で進めるという意見が出ました。また、未来型学府一体校に対する肯定的な意見や豊田東小学校児童の人間関係づくりが心配であるという意見も出ました。それに対し、新校舎への豊田東小児童の居場所づくり、向上型学府一体校の基本的な考え方を提示する等が提案されました。

■ 第 3 回検討会 ■

- ・ 「ながふじ学府向上型学府一体校における基本的な考え方」（次ページ参照）について話し合いました。委員からは、小さな頃から交流すること、地域でも人間関係づくりを助けるような事業を実施することなどで子ども同士の間関係づくりができるという意見が出ました。また、豊田東小学校は現在安定した教育が行われていることや、大人が心配する以上に子どもは順応していく力を持っているから大丈夫である等の意見も出ました。
- ・ 学府一体校は長期的な展望である。現在の状況を踏まえ、適正な規模で出発するべきであるということで意見がまとまりました。

■ながふじ向上型学府一体校はこんな学校に

●学年区分は？

当面は、小学校6年、中学校3年の「6-3」制で行います

●児童生徒の人間関係づくりはどうか？

豊田北部小学校・豊田東小学校の児童、豊田中学校の生徒の人間関係づくりに向けた取り組みを行います

- ・小学生同士で行うレクリエーション交流
- ・課外活動の合同練習
- ・小学校合同で実施する宿泊体験（H29より実施）など
※児童生徒の移動には、スクールバスを活用します

●教育カリキュラムや学校の教職員体制は？

①学習内容のつながりや重点目標等を重視したカリキュラムを実践します

②小中学校の接続を強化します

- ・生徒指導委員会等における共通理解を強化します
- ・授業研究会を共同実施します
- ・合同研修会を実施します

③中学校の教員が小学校で授業を行う「乗り入れ授業」を実施します

●施設、教育機器などの環境整備は？

○新校舎の中に豊田東小児童の活動できる場所を設置します

○コンピュータ、視聴覚機器などの教育機器は、一体校に限らず、整備計画に従い進めていきます

■第3回・第4回検討会の意見

■第3回検討会■

- ・豊田中学校の敷地内において、児童生徒のグラウンドの使い方や保護者の駐車場の問題などについて意見が出されました。豊田中学校の敷地以外に豊田北部小敷地や他の新しい場所は考えられないかという意見も出ました。

■第4回検討会■

- ・豊田中学校と豊田北部小学校の敷地面積を比べた場合、豊田中学校の敷地面積の方が広く、新校舎の建築には適しているということになりました。新たな敷地の獲得については、土地取得や造成費等の財政的な問題、取得手続きなどに3年以上の月日が掛かり、工期の問題で難しいということになりました。
- ・建設中のグラウンド利用の制約は、豊田加茂グラウンド、豊田加茂テニスコート、豊田野球場を利用することもできるという意見が出ました。
- ・グラウンドや駐車場の確保について、基本構想や基本設計の中で、検討していくということになりました。

建設場所は「現豊田中学校敷地」が適しているということで

まとめました

- 第3回、第4回の検討会では、ながふじ学府の建設場所について検討しました。
児童生徒数をもとに算出した校舎必要延床面積や必要校地面積などから建設場所の検討をしました。結果、「現豊田中学校敷地」が適しているとまとめました。

■ 第3回・第4回の検討資料からみると

①新校舎の想定規模からみると

- 向上型学府一体校における児童生徒数を基に算出した、校舎必要延床面積と必要校地面積を比較しました


単位：㎡		小学校	中学校	一体校
校舎の必要延床面積		7,262	8,097	15,359
必要な校地面積	3階建て	13,230	17,503	30,733
	4階建て	12,222	16,378	28,600
	5階建て	11,617	15,703	27,320

※必要面積は、文部科学省の小学校及び中学校設置基準等に基づいて算出しています

②豊田北部小学校と豊田中学校の敷地を比較すると

- 豊田中学校敷地 33,223㎡は、必要校地面積を満たしています

豊田中学校



校地面積	33,223㎡
評価	・現状の敷地内での一体校整備は可能 ・整形な敷地形状

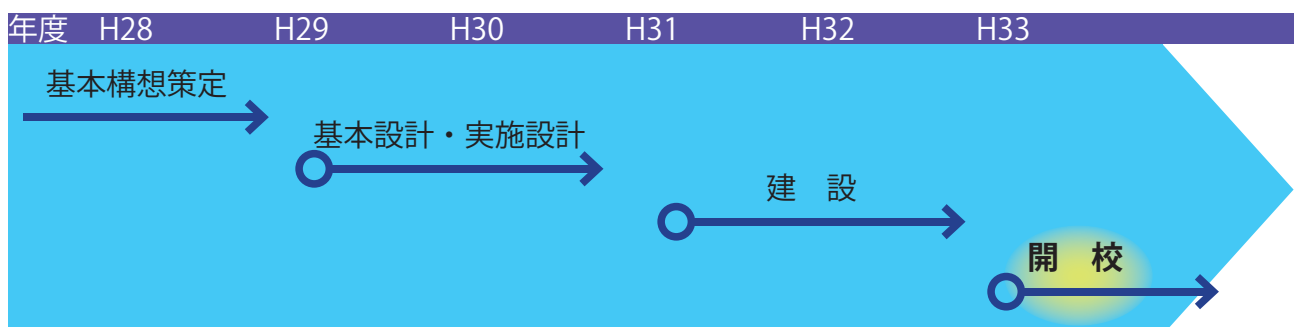
豊田北部小学校



校地面積	19,919㎡
評価	・学府一体校としては敷地が狭い ・不整形な敷地形状

■ 今後のスケジュール（案）

- 平成33年度開校を目指しています



ながふじ学府新たな学校づくり検討会とは

■検討会ができるまで

平成 28 年 1 月～ / 地域住民や保護者に説明会の実施
7・8 月 / 地域及び保護者から学府一体校の推進への要望書等が提出される
9 月 / 「ながふじ学府新たな学校づくり検討会」を立ち上げる

■検討会の目的

小中一貫教育に適した学校施設整備の基本構想策定に向けて、課題整理、基本方針、施設機能及び想定規模等についての検討を行う

■検討会のメンバー（計 16 名）

千葉大学大学院工学研究科教授、静岡県教育委員会指導主事、ながふじ学府の小中学校長、豊田地区支部長、ながふじ学府 3 地区代表、ながふじ学府小中学校及び幼稚園の保護者代表、ながふじ学府コミュニティ・スクール・ディレクター



©磐田市

■これまでの検討会の開催経過

◆第 1 回検討会◆

- ・開催日：平成 28 年 9 月 9 日（金）午後 6 時～8 時
- ・会 場：磐田市役所 西庁舎 301～303 会議室
- ・講 演：演題「これからの学校施設計画の課題
～小中一貫教育校の学校施設計画を中心として～」
講師 千葉大学大学院工学研究科 柳澤要教授
- ・委嘱状交付
- ・検討事項及びスケジュール（案）について



◆第 2 回検討会◆

- ・開催日：平成 28 年 10 月 8 日（水）午後 1 時 30 分～3 時 30 分
- ・会 場：豊田支所 2 階 大会議室
- ・検討事項 ①現状について ・教育構想、目標 ・児童生徒数推移
②方向性について ・学府一体校基本方針



◆第 3 回検討会◆

- ・開催日：平成 28 年 11 月 2 日（水）午後 1 時 30 分～3 時 30 分
- ・会 場：豊田支所 2 階 大会議室
- ・検討事項 ①ながふじ学府の方向性について
・向上型学府一体校における基本的な考え方
②想定規模及び施設について



◆第 4 回検討会◆

- ・開催日：平成 28 年 12 月 7 日（水）午後 6 時～午後 8 時
- ・会 場：豊田支所 2 階 大会議室
- ・検討事項 ①建設場所について
②かわら版配付について
③基本構想の内容について

ながふじ学府 新たな学校づくり検討会 かわら版 発行：平成 29 年 1 月 13 日

【事務局】磐田市教育委員会教育総務課学府一体校推進室

〒438-8650 静岡県磐田市国府台 3-1 TEL:0538-37-2115 FAX:0538-36-1517